

令和元年9月3日現在

機関番号：32638

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03533

研究課題名(和文) 留日学生、それぞれの日中戦争-マルチ・アーカイブによる留日学生の戦争行動研究-

研究課題名(英文) A Study on the Chinese Students' Behaviour in the Sino-Japanese War through Multi-Archives

研究代表者

浜口 裕子 (Hamaguchi, Yuko)

拓殖大学・政経学部・教授

研究者番号：20192536

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：戦前、中国から日本へ留学した留学生に関して、留学中にどのような教育を受け、どのような出会いの場となったのか、それが後の彼等の政治的行動にどう影響したのかを考察した。そのために、各自史料収集を行った。最大の成果は、陸軍士官学校の予備校であった成城学校の留学生関連の史料を発掘・整理し目録を作成し、これをPDF化したことである。メンバー各自で地域を分担して収集史料を使い留日学生の経歴や歴史的背景を検討し、日中戦争に至る彼等の動向を分析した。その成果を国際学会(東アジア日本研究者協議会国際学術大会)でパネル「東アジアにおける人の移動-留日学生からみる東アジア国際関係史」を組み発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦前の東アジア諸国にとって明治維新を経て近代化の道を歩む日本への留学は大きな意味を持つ。たとえば19世紀末から20世紀初頭にかけての中国人留学生の中には、帰国後母国の政治的変動と国際関係のうねりの中で、大きな役割を果たしていく者が多くいる。彼等の行動は、留日経験や教育、またそこで得た人脈が影響していると思われる。史料の発掘・整理を行った成城学校は陸軍士官学校の予備教育機関であり、留日学生にとって日本との遭遇の場で、人脈は陸士に引き継がれ重要な意味を持つ。また本研究で中国内での地域による政策の違いもある程度明らかになった。留日学生研究から東アジア国際関係史の人的流れを追うことができた。

研究成果の概要(英文)：The study on Chinese students who studied in Japan during prewar period includes: how they were educated, encounters they had and how it influenced their political behaviours. Methodologies used were 1. Sorting out the archives on the Chinese students of Seijo School (coaching school of Japanese Military Academy then), making inventory and record of historical materials in PDF format, 2. Members studied the materials collected to study each student's personal history and background and their behaviours leading to the Sino-Japanese war, 3. Announcing the result at an international conference on East Asia Researchers on Japan.

研究分野：東アジア国際関係史

キーワード：留日学生 日中戦争 中国人留学生 成城学校 史料PDF化 人的流れ

## 1. 研究開始当初の背景

明治維新以降の日本の「発展」は戦前のアジア諸国にとって一つの目標であった。留日学生はその時代の母国の政治的・経済的状況を背景に、一定の役割を期待された。特に中国からの留学生からは、後の中国近現代史や日中関係史に大きな足跡を残した軍人や政治家が数多く輩出した。こうした留学生研究に関しては、近年多くの成果が出されつつある。だが留日政策の流れの解明や留日の及ぼした影響に関しては、歴史認識に関わる問題でもあり、解明されるべき点はまだまだ尽きない。それらを踏まえた上で、日中関係やアジアの近現代史を対日留学という面からアプローチする必要が認められた。

## 2. 研究の目的

戦前、中国から日本へ留学した留学生に関して、留学中にどのような教育を受け、どのような出会いの場となったのか、それが後の彼等の政治的行動にどう影響したのかを考察する。中国からの留日学生数は日露戦争後にピークをむかえるが、彼等はその後、辛亥革命、軍閥割拠、満洲事変、日中戦争、国共内戦、中華人民共和国成立という激動の東アジア史を織りなす。その行動を、留学経験に注目して分析する。特に満洲事変から日中戦争にかけての時期に、どのような政治的な動きを見せたか、それが戦後の国際関係にどうつながっていったかを分析する。

## 3. 研究の方法

4人の共同研究者(分担者)がそれぞれ得意な地域を受け持ち、各自、次の作業を進めた。

- (1)史料発掘、収集、整理、を行う。
- (2)それらの史料を使って、留学政策の流れや教育内容、留学中に得た人脈、を追い、分析する。分担した地域は、浜口 - 中国東北(満洲)、家近 - 国民政府支配地区と中国共産党根拠地、広中 - 親日政権と辺境、岩谷 - 日本軍占領地区、である。

## 4. 研究成果

(1)史料の収集は各自進めた。中でも最大の成果は、陸軍士官学校の予備校であった成城学校の留学生関連の史料を発掘・整理し目録を作成し、当該史料をPDF化したことである。このPDFの公開に関しては、関連する研究者の間で関心を呼び、期待されていた。当初、シンポジウムを企画し公開予定であったが、所有者である成城学校との交渉が不調に終わり、別途目録のみを印刷物にして公開する予定である。

史料整理にあたり、発掘当初より、成城学校と緊密に連携し、進めてきたが、組織の担当者が変わり、「個人情報保護法」を盾に、歴史史料の公開を拒むに至り、シンポジウムや作成PDFの出版公開は不可能となった。法的な解釈や歴史研究についてこの法律を適用すべきか否かに関しては、まだ議論の余地があるが、一般的には作成から80年以上経た史料に関しては、一部の特別な情報以外は公開可能という原則がある。しかし私立学校である成城学校の史料は、帰属が学校となり、公開を判断する責任者もはっきりせず、現段階では内容の公開は断念せざるを得なかった。成城側には日本と東アジアの近現代史において見逃すことの出来ない事実を語る貴重な史料であるため、国の機関に寄贈し委託・整理することを勧めた。

(2)メンバー各自で地域を分担して収集史料を使い留日学生の経歴や歴史的背景を検討し、日中戦争に至る彼等の動向を分析した。

(3)その成果を国際学会(第3回東アジア日本研究者協議会国際学術大会、於京都)でパネル「東アジアにおける人の移動 - 留日学生からみる東アジア国際関係史 - 」を組み発表した。これには浜口、家近、広中が参加しそれぞれ、「満洲」からの留学生(浜口)、「日本の軍事留日学生の受入れ」(家近)、「成城学校初期浙江省出身者留日学生の動向」(広中)を発表した。

(4)研究過程において収集した史料を用い、日中戦争関連、日本留学経験者関連の研究をまとめた。

これらの研究は広い意味で、近現代史上、日本が近代中国・東アジアに果たした役割が決して少ないものではないことが証明される一助となろう。さらに歴史認識等で揺れる戦後の東アジアと日本との関係に一考を促す契機の一つとなろう。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計10件)

浜口 裕子、石原莞爾の対中国観を追う - 満洲事変から東亜聯盟への軌跡 - 、拓殖大学論集 - 政治・経済・法律研究 - 、査読有、第21巻第1号、2018年、1~24頁

広中 一成、日中戦争期華北における仏教同願会の成立と対日協力、東洋史研究、査読有、第77巻第2号、2018年、62~93頁

岩谷 將、日中戦争拡大過程の再検証、軍事史学、査読有、第53巻第2号、2017年、4~27頁

広中 一成、二つのボイコットからみた東亜同文書院の学校運営の問題（1920～1930年）、思潮、査読有、第81巻、2017年、20～41頁

広中 一成、上海に生きた東亜同文書院生 - 戦前上海日本人社会の一側面 -、アジア遊学、査読無、第205巻、2017年、106～119頁

家近 亮子、蒋介石における戦時外交の展開 - 中国 IPR への領導と中華の復興・領土回復の模索 -、軍事史学、査読有、第53巻第2号、2017年、77～104頁

岩谷 将、日中戦争における和平工作、筒井清編『昭和史講義 2：専門研究者が見る戦争への道 -』、筑摩書房、2017年、165～182頁

浜口 裕子、日本における華僑組織と中国人留学生の組織、華僑・華人の事典編集委員会編『華僑・華人の事典』、丸善出版、2017年、212～215頁

広中 一成、上海に生きた東亜同文書院生 - 戦前上海日本人社会の一側面 -、堀井弘一郎他『アジア遊学 205 戦時上海グレーゾーン溶触剤「抵抗」と「協力」 -』、勉誠出版、2017年、106～119頁

広中 一成、報道写真からみた通州事件 - 日中戦争初期における日本の反中プロパガンダ -、朴美貞他編『日本帝国の表象 生成・記録・継承』、えにし書房、2016年、93～117頁

〔学会発表〕(計12件)

浜口 裕子、「満洲」からの留学生 - 振武学校・陸軍士官学校から「満洲国」大臣へ -、第3回東アジア日本研究者協議会国際学術大会、2018年10月

家近 亮子、日本の軍事留日学生の受入れ - 成城学校を事例として -、第3回東アジア日本研究者協議会国際学術大会、2018年10月

広中 一成、成城学校初期浙江省出身者留日学生の動向 - 黄龍旗事件と「漢奸」湯爾和、第3回東アジア日本研究者協議会国際学術大会、2018年10月

岩谷 将、中日戦争初期日本的謀和工作、中国社会科学院近代史研究所学術講座、2018年9月

家近 亮子、目まぐるしく動く東アジアの国際関係 - 歴史・相互関係・今後 -、豊丘村交流学習センター、2018年8月

家近 亮子、西安事変再考 - 蒋介石に対する評価と日本の対応 -、霞山会創立70周年記念シンポジウム、2018年10月

浜口 裕子、満洲国の対日留学生 - 人の流れと東アジア国際関係 -、中央大学政策文化総合研究所・公開研究会、2018年3月

家近 亮子、蒋介石の外交戦略と中国 IPR、「文化国際主義」の挫折と再生」研究会、2017年12月

家近 亮子、蒋介石と日中戦争 - 蒋介石は抗日戦争によって、何を得、何を失ったか? -、偕行社主催シンポジウム「日中戦争と指導者 - 蒋介石・毛沢東・王兆銘 -」、2017年2月

広中 一成、東亜同文書院の学校運営の実像 - 二つのストライキ事件から -、歴史学会、2016年12月

家近 亮子、東アジア国際関係の歴史と現状 - 中華世界は復活するか -、第46回国際大学オープンセミナー国際理解講座、2016年9月

広中 一成、戦時期上海における東亜同文書院生の生活の変化、日本上海史研究会、2016年5月

〔図書〕(計2件)

家近 亮子他近代中国人名事典修訂版編集委員会編『近代中国人名事典 修訂版』、霞山会・図

書刊行会、2018年、930頁

家近 亮子・岩谷 將他監修『日中戦争と中ソ関係』、東京大学出版会、2018年、326頁

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：家近 亮子

ローマ字氏名：Iechika, Ryoko

所属研究機関名：敬愛大学

部局名：国際学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：10306392

研究分担者氏名：広中 一成

ローマ字氏名：Hironaka, Issei

所属研究機関名：愛知大学

部局名：東亜同文書院大学記念センター

職名：研究員

研究者番号（8桁）：40618576

研究分担者氏名：岩谷 將

ローマ字氏名：Iwatani, Nobu

所属研究機関名：北海道大学

部局名：法学研究科

職名：教授

研究者番号（8桁）：80779562

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。